

重点政策

1 すべての子どもたちがお金の心配なく学べ子育てしやすい横浜

認可保育園の増設と保育士の拡充、学童保育への支援増

小中学校・高校の30人以下学級の実現、教員の多忙化解消

学校調理方式による全員制中学校給食の実現と小中学校の給食費無償化

不登校の子どもたちの通うフリースクールや居場所の支援

2 すべての人に支援が行き届く市政の実現

18歳まで子ども医療費・無料化

高齢者の医療費負担の軽減

消費税減税およびインボイス制度の廃止を求めるとりくみ

3 災害に強く市民の命を守るまちづくり

危険なブロック塀対策等通学路の安全確保

河川の氾濫浸水対策

4 市民からの一つひとつの要求を真摯に受け止る「なんでも相談」の継続

格差と貧困、差別をなくす

～市民の声が届く横浜市政へ～



大和田あきお

大和田あきおプロフィール：1952年川崎市生まれ。東海大学付属相模高等学校/早稲田大学教育学部卒業。神奈川県立川崎北高等学校・横浜南陵高校上矢部高校など県立高校の数学教師として勤務。神奈川県「日の丸君が代の強制反対と思想信条の自由」を求める運動・裁判に取り組む。元全国高校生活指導研究会常任委員日本共産党戸塚区教育文化部長。神奈川県教職員連絡会顧問。趣味は映画鑑賞、旅行、剣道四段。戸塚区平戸在住。妻と二人暮らし。

こんにちは 大和田あきおです
党戸塚区教育文化部長 2022年特別号
発行：日本共産党戸塚区委員会戸塚町3884-1
TEL: 045-865-0074
FAX: 045-865-0594

背景画 A.S 書 A.H

大和田あきおさんにバトンタッチ

日本共産党横浜市議員の岩崎ひろしです。私は、来年4月の改選を機に引退させていただきます。共産党の候補者・議員として28年間、大過なく続けることができました。

みなさんの物心両面でのお力添えのおかげです。本当にありがとうございました。

後継者は、「大和田あきお」さんです。大和田さんは、前回地方選の県会候補として善戦・健闘。昨年8月の市長選挙では、戸塚区民の会事務局長として山中市長誕生に貢献しました。さらに、この4年間、私と一緒に“なんでも相談”に取り組むなど、頼もしい後継者です。

戸塚区に、“命とくらしを守る”日本共産党の存在が絶対に必要です。

そのことは、「困った時には“なんでも相談”」が、通算28年間続いていることから説明できます。

戸塚区は、党派間の政治戦が激しいところです。ここで競り勝つには、大きく、熱烈なご支援が必要です。

これまで、岩崎ひろしにお寄せいただいたご支援を、今度は、大和田あきおさんに、お願いいたします。

私も全力をあげます。



バトンを受けて、がんばります！

岩崎ひろし市会議員のバトンを受けとることになった大和田あきおです。この戸塚区で市民の声を伝え実現するために、全力を尽くしたいと思います。

私は、2017年まで42年間、高校教師として学校教育に取り組んできました。

高校生活指導研究会の活動をはじめ、安保法制違憲訴訟かながわの会など市民運動にも参加してきました。

2021年の横浜市長選挙では、カジノ反対の市長を誕生させる戸塚区民の会の事務局長として、カジノ反対の世論を広げ、カジノを中止させることができました。

私が横浜市政に望むことは、すべての子どもたちがお金の心配なく学べ、子育てしやすく、市民の声が届く市政です。

日本共産党の躍進と市民と野党の共闘で、自民党の腐敗した政治ではなく、憲法の民主主義と平和主義による「市民が主人公の政治」を横浜から実現していきましょう。

おとなしかった幼少期、数学好きの出発点はカミナリ塾

1951年、父が川崎の日本鋼管への就職が決まり、福島県会津若松市での農業の仕事をやめ、家族みんなで川崎市に転居してきました。私はその翌年2月、川崎市川崎区小田にて四男として誕生しました。幼い頃の私は、近所の子どもたちと一緒に遊びに夢中でしたが、比較のおとなしい性格であったとも言われています。

小田小学校の4年生頃、鶴見区の「カミナリ塾」と言われた、怖くて面白いと評判の学習塾に1年ほど通ってから、算数に少し興味を持ち始めました。また、中学1年生の3学期に横浜市に転居し、鶴ヶ峰中学校の数学の先生の分かりやすく楽しい授業

で、数学の面白さに目覚めました。東海大学附属相模高校に入学してからは、先生の熱意ある授業を通じて、微分積分に感動し数学への好奇心を一層高めることができました。将来数学の教師をめざそうと考え、毎日剣道部の稽古で汗を流しながら数学の勉強に励みました。



母の愛と姉の犠牲

中学・高校時代を振り返ると、幾度かの挫折が新しい自分づくりにつながっていたように思います。特に、県立高校受験の不合格の体験が高校生活を大きく変えていく分岐点でした。

高校受験で挫折感を味わった私に、何故か母は、「大学附属高校」に入学すればよいと言っていました。その理由は、後に姉を通じて知りました。姉が母に大学進学を希望したとき、母から「あきおは、末っ子だから、親が一番面倒を見ることができない。家計が厳しいこともあり、四人兄妹であきおだけは大学に行かせてあげたい」と聞かされ、姉は大学進学をあきらめたそうです。経済的に貧しい中で教育を受けられない人がいる理不尽さとその中で母が私に対して精一杯の愛情を注いでくれたことに感謝しています。

タバコ事件で生徒会長に

高校生活で自分自身を大きく変えるきっかけとなったのは、私が高校1年生の時の生徒会本部役員選挙です。3年生の生徒会長が喫煙事件を起こし、掲示板に「〇〇はタバコ喫煙の事実により、〇〇日間の停学とする。」と張り出されているのを見たある上級生が「どうせこの学校じゃ」と投げやりにするのを聞き、私はいたたまれず、「だったら学校を良くすればいいじゃないか」とその2人の上級生に抗議しました。

その年の生徒会本部役員選挙では、1年生の私が生徒会長にあえて名乗りを上げました。

力の限界に挑戦した高校時代

高校1年生の時、立候補した生徒会長選挙で、私は約60票の得票で落選し、2年生の先輩が予想通り当選しました。この生徒会選挙を契機に、生徒主体の生き生きとした学校にするために自分に何ができるのか、考えるようになりました。

その後の高校生活では、剣道部の活動を通じて、部員同士の絆と連帯を深めることの大切さを学びました。2年生の7月に剣道部の部長になってからは、稽古で相手を倒すことよりも自分と相手が共に高め合うことを心掛け、剣道の技量を磨くために汗だくなる毎日でした。

2年生の10月には、生徒会長選挙に再度挑戦し、「この学校を私たち生徒の意見が反映される学校にしよう。そのために生徒会組織を改革しよう!」と訴え、当選しました。

生徒会本部が丸となり、生徒の意見を反映する「目安箱」を設置したり、それまで教師が主導していた文化祭、体育祭を生徒会本部が中心となって成功させ、生徒会の改革にとりくみました。そのときの生徒会本部のメンバーは、卓球部の部長、陸上部の部長、放送委員会の委員長などリーダーが揃っていたことも大きな力となりました。

今その当時のことを振り返り、体育科のH先生や理科のK先生の助言など、生徒会の活動を支えて頂いたことに感謝しています。



青春を謳歌した大学剣道部時代

1970年に高校を卒業し、高校の教師をめざし、1971年に早稲田大学教育学部に入学しました。その当時、早稲田大学教育学部は私学で最も授業料が安かったこともあり、数学と教育の理論を深く学びたいと考え、1年浪人して入学しました。

大学1年から体育会剣道部に入り、数学を学びながら、毎日の剣道部の稽古に加え、夕方には学習塾の講師をする厳しい学生生活でした。

剣道部の部員は、約120名で、同学年の部員は22名でした。初めての剣道部の合宿では、一日3回の厳しい稽古がありまし

た。この年の合宿では、仲間が全身痙攣(けいれん)となり、救急車で運ばれた人もいました。稽古が終了すると、ほとんどの部員は座り込んで動けない有様でした。しかし、音を上げる部員はいませんでした。

合宿では、1年生全員が招集され、全員が一同に正座を強いられ、全員がビンタ(平手打ち)されました。しかし、私たち1年生の部員は、秘密裏に集まり、「ビンタについては納得できない。我々は全力で稽古をしてきており、暴力に抗議し謝罪を求めたい。もし、謝罪をしてもらえなければ、全員で剣道部を辞めることにしよう。」と確認し、

青春を謳歌した大学剣道部時代

主将を含めた上級生に謝罪を要求し、暴力行為への反省をしてもらいました。これ以後、暴力的制裁を廃止し、早稲田大学剣道部は、稽古でのみ鍛え合う正々堂々とした民主的な部へと発展していきました。

大学2年生になってからは剣道部の寮に入り、3年生で過労で倒れるまで毎朝自主的に全国最強と言われた警視庁の道場の稽古に行き、大会のレギュラーを目指しました。



1975年 卒業前の剣道部同期の記念写真
<私は上段から2段目の一番右>

私を変えたある生徒との出会い

私は、1975年4月1日、神奈川県立川崎北高校に数学の教師として赴任しました。その年、川崎北高校は創立2年目で、体育館や格技場もなく、グラウンド以外どの校舎も未完成で、建て増し工事の中、授業が始まりました。

初めて高校に来校し校長先生と面接した際、まず剣道部を創設する意思を伝え、職員の了解を得て活動を開始させました。プレハブの運動場で朝練と放課後の稽古を行い、私も生徒と一緒に汗を流していました。翌年、学校の近隣の剣道場を使用させていただくことになり、厳しい稽古を本格的にスタートさせました。剣道部の指導に全力投球し、高校体育連盟の川崎地区剣道大会で、2年後には男子団体、3年後には女子団体で優勝することができ、剣道部が活気づいていきました。

また、赴任して2年目には、1年生の担任となり、一人の生徒のタバコ喫煙問題に直面しました。その生徒がなぜそのような状況になってしまったのかと疑問に思い家庭訪問を繰り返す中で、生徒の悩みや家庭

の厳しい現実を痛感するようになりました。その生徒は一人親家庭で、母親が働きに出ているとき、一人で家庭にいることが多く、寂しい家庭状況にあることが、家庭訪問を通じて分かりました。経済的に厳しく困難な家庭状況にある生徒も充実した学校生活を送れるためには、どのような学校生活にする必要があるのか悩みながら、生徒の指導に取り組みました。そのときに、全国高校生活指導研究会（略称、高生研）の学習会に参加し、「生活指導とは何か」という教育の本質について考え実践するようになりました。この研究会は、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という民主的な自治集団をめざす学級集団の指導を研究していました。その一人の生徒との出会いが、新たな教育実践をめざす出発点となりました。

教師3年目には、生徒の自立に向けた「学級集団づくり」を実践し始めました。その中で、生徒の声をじっと聞きながら、生徒の願いや気持ちにより添うことの重要性に気づかされました。

日本共産党への入党を決意した思い

教師2年目、神奈川県高体連剣道専門部の常任委員となり、日曜日や休日など、剣道大会の審判員として多忙な日々を過ごすことになりました。教師3年目は、2学年の担任として、学級指導として生徒を班ごとに編制し自主的な係活動をすすめていました。その中で、1年生のときに遅刻常習者であった生徒が2年生では学級委員として活動し、自分自身の生活を変え自立していく成長の姿を見ることができました。

教師4年目には、「生徒自ら、みんなで決めてみんなで実行する」民主的な自治集団づくりに力を注ぎ、翌年度から、高生研の川崎サークルの事務局長を引き受けることになりました。その同じ時期に、教職員組合の活動で民主的な学校づくりを目指し共に力を合わせてきた同僚教師2人から、日本共産党への入党を訴えられました。

私は、これから教師としてどのように活動し生きていくのかと考えた末、入党を決意しました。共産党員である職場の同僚の心からの訴えとともに、『私が先生になったとき』という詩の次の一節に大きく心を揺り動かされたからです。

「私が先生になったとき、自分の闘いから目をそむけて子どもたちに勇気を出せと言えるのか」と。



同僚とともに
<私は上段の左から2番目>

後援会もがんばります！

大和田さんを押し上げる日本共産党戸塚区後援会は総力を結集します。

山中市長の公約実現を強力にバックアップする革新勢力と足を引っ張ろうとする保守勢力との対決になっています。その中で岩崎市議の活動を引き継ぎ発展させるため大和田さんの横浜市における存在は極めて重要です。

社会的弱者の立場を大いに代弁してほしいのです。ギャンブル依存症の温床になるカジノ誘致の息の根を止めることも大切です。また世界情勢でもロシアのウクライナ侵略を止めさせるため日本国憲法9条を前面に掲げる日本共産党の主張を草の

根から共に広めていきたいと思えます。

コロナ対策にしても経済優先ではなく人命優先の姿勢を徹底させることも大切ですよ。

大和田さんのこれまでの地道な活動の実績を大いに広め、発揮してもらいたいと思えます。そのために後援会の全力を挙げて取り組みます。



池田俊夫
(日本共産党戸塚区後援会会長)

みんなの

大和田先生!
がんばって~

応援メッセージ

★県立川崎北高校第3期剣道部(主将)の小林秀之

目指す社会に向けての活動頭が下がります。リーフレットの先生のお顔拝見しましたが北高時代と変わらぬ元気が伝わってきました、自分にも非常に励みになります。

さて私は62歳になりました、シニアで2年働いております。剣道はご無沙汰ですが4、5年前に剣道部OB会があり、富士川さん、横田さんの元気なお顔拝見しました。同期の木本とも飲んでおりまして、高校時代の練習の話をする、終わりがありません。

日本を変える行動期待しております。お身体に気をつけて、頑張ってください。

★森岡孝司(早稲田大学剣道部同期)

大和田君の剣道は道場をところ狭しと動き回るフットワークの良さが強み。人生を一杯活躍する歩みは今も変わらない。

教育現場を知り尽くした彼が、将来を担う青少年たちのために市政を運営する上でその誠実さと情熱を大いに燃焼させることを期待しています。身体に気をつけて頑張ってください。

★古尾谷久美子(元教員)

心から応援します。横浜が変わると大きいと思っているので是非頑張ってください。パンフレットを読んで、日頃の地道な活動を思います。地方から日本を変えましょう!

★萩原伸次郎(横浜国立大学名誉教授)

高校教師42年の実績を生かし、教育文化の充実した横浜市を創るべく頑張ってください。岩崎さんを引き継ぎ、活躍してください。応援しています!!

★田中順久(県立上矢部高校の元同僚)

大和田さんとは、私の教員生活の最後の10年ほど同僚でした。特に文化祭の準備などで、生徒とともに企画を練ったのは、楽しい思い出です。しかし、当時は「日の丸・君が代」の強制が刻々と進んでいる時代でした。生徒の自主性、教員の工夫の余地はどんどん狭められていました。毎年卒業式、入学式が近づくと強制にどのように抵抗するかということが課題でした。それでも世の中、前進したと思うこともありましたが、全体としてみれば、息苦しい世の中になっていると思います。

ここで気を抜くと、すべては、何十年前に戻りしかねません。日本社会をすこしでも良い方向に向かわせる必要があります。そのためには、大和田さんが大きく活躍することが一歩と思ひ推薦いたします。

★石田誠一(神奈川高生研事務局長)

私が初任で県立川崎北高校に赴任した頃、身体ごと生徒にぶつかっていく先生がいました。それが大和田さんでした。生徒たちへの対応も「班核討議づくり、集団づくり」といった高生研(高校生活指導研究協議会)で学んだ理論に裏づけられたものでした。彼が転勤後も神奈川高生研で付き合いがあり、HRなどの実践報告を行うと丁寧で鋭い視点で分析してもらい、今後のクラスづくりにいつも明るい展望が見えてきたのを覚えています。

大和田さんは市民や子どもたちに眼と心を常に向け続ける人だと確信しています。

★三木敏一(汲沢一丁目)

大和田さんはなによりも誠実で正義感あふれる人物です。市民の期待に応えることができます。応援します。

★菊谷節夫(神奈川県平和委員会理事長)

大和田さんの決意を聞き、嬉しかったです。私たちは、カジノ誘致は市民が決めようと住民投票条例制定運動を大きく展開し、昨年の市長選挙で山中市長を誕生させ、カジノ誘致を断念させました。次は住民投票条例を拒否した自民・公明党市会議員に鉄槌を加える時です。そして、自校で美味しい温かい中学校給食の実現など市民のための市政が求められています。そのためには大和田さんの活躍が絶対条件です。

いま自民党は憲法違反の「国葬」を強行し、統一協会との深い関係など腐敗した政治を露呈しています。憲法に基づく、公平で、まともな政治こそ期待されています。頑張れ!大和田さん、心より応援しています。

★原木克巳(県立茅ヶ崎北稜高校の元同僚)

大和田さんは穏やかで優しく、気配り、心配り、思いやりがあります。正義感にあふれ、正々堂々と不条理に立ち向かう力強さがあります。

人々の暮らしを良くするため、必ず公約を実現して期待通りの活躍をしてくれることでしよう。私は大和田さんを推薦します。

★大川隆司(弁護士)

大和田さんが、子どもの学習権を守る、という目的のために、本当にまじめに熱心に活動をつけて来られたことに敬服しています。

こういふ方が横浜市の大舞台にいると本当にいいなと思います。

★戸塚区汲沢・TKさん

「君の行く道は、果てしなく遠い、だのになぜ、歯をくいしばり君は行くのか、そんなにまで」大和田あきおさんは、後援会集会の場で、この歌を歌われました。お聞きして私は涙が出そうでした。大和田さんの政治に対するお気持ちがわかったからです。

夏の参議院選挙の際には、共産党の方々の演説を聞きました。皆さん、聡明で真剣な方々です。大和田あきおさんもその一人です。

大和田あきおさんが、大いに活躍されますように願っております。

★県立上矢部高校の元同僚・HAさん

私は、大和田さんを自信を持って応援します。教育現場と「カジノ誘致反対」の市長を誕生させる戸塚区民の会事務局長として尽力された経験を持つ大和田さんは、今こそ横浜市に必要な人です。大和田さんなら私たち市民と同じ目線で横浜を見て、私たちと一緒に考え、そしてその声を市政に届けてくれるはずですよ。小さな声をしっかりと受けとめ市政に届けることができるのが大和田さんです。多様な市民が伸びやかに生きられる横浜の実現のために、みなさん、大和田あきおさんを応援しましょう!

★内田保孝(港南台9条の会)

日々のお働きご苦労様です。市民一人、ひとりの生の声をていねいに吸い上げ市政に反映できるようご尽力ください。

少子高齢化の進む日本の社会ですから、社会福祉面の充実が今後ますます必要と思います。ご健闘を祈ります。

★高橋信雄(教職員応援団)

「お金の心配なく学べ、子育てしやすい横浜へ」大和田さんから、いろんな話を聞く中で*大学時代、月3万の仕送りで生活したこと*バイトをやりすぎて身体を壊してしまったこと*兄弟は進学を我慢して、自分だけが大学まで行かせてもらったことなど、境遇の重なるところがあり、グッとこみ上げるものがありました。そのことが「この政策」に裏打ちされていることを知り、また、熱くなりました。

こんな大和田さんこそ横浜に必要な方です!力いっぱい応援します。

★大山奈々子(神奈川県議会議員)

大和田あきおさんはフセダの教育学部の先輩だったんですね!子どもたちと現場で向き合ってきた大和田さんと、障がい児教育に造詣が深いパートナーさんとともに教育問題でリアルな助言をいただけてきました。

国が教育のあるべき姿を歪めてくる時だからこそ大和田さんに政治の場で頑張ってもらいたいです。剣の道で精進した人は曲ったことを許しません!

大和田あきおさんって、どんな人？

1952年2月 川崎市川崎区小田にて生まれる

両親は福島県会津出身。
4人兄弟の末っ子で、おとなしい子どもでした



1967年 東海大学附属相模高校入学

剣道部と生徒会活動に
精力的にとりくみました

1971年 早稲田大学教育学部へ入学

学費を奨学金とアルバイトでまかないながら
体育会剣道部で青春を謳歌しました



1975年 県立川崎北高校に数学教師として赴任

剣道部をつくり、地区大会優勝も。
生徒の生活指導を通して社会の矛盾に気づき、日本共産党へ入党。
教職員組合活動にもとりくみました。



1990年 38歳で結婚

妻とのジャンケンに負け、
姓が菊地から大和田へ。

2012年 定年退職

川崎北高校、新磯高校、茅ヶ崎北陵高校、上矢部高校、横浜
南陵高校に勤務し退職。その後、1年単位で再任用として勤務（城郷高
校、白山高校、保土ヶ谷高校、上矢部高校、藤沢清流高校）

2019年 県議会議員選挙に戸塚区から立候補

ゆきとどいた教育のための予算増額などを訴え、
14,136人の方から支持をいただきました



2023年4月 岩崎ひろしさんからバトンタッチ！

大和田あきおの市政改革ビジョン

1 一人ひとりの子どもの成長・発達を保障する教育・保育

- ・認可保育園の増設と保育士の拡充、学童保育への支援増
- ・小学校、中学校、高校の30人以下学級の実現、教員の多忙化解消
- ・子どもの学習権の保障による小学校、中学校、高校の統廃合政策の見直し
- ・子どもたち一人ひとりの意見表明の保障、生徒主体の学校づくり
- ・学校調理方式による全員制中学校給食の実現と小中学校の給食費無償化
- ・授業料無償化と給付制奨学金制度の実現
- ・不登校の子どもたちの通うフリースクールや居場所の支援

2 すべての人に支援が行き届く市政の実現

- ・医師、看護師、保健所などの拡充
- ・18歳までの子ども医療費無料化
- ・18歳以下の均等割り廃止等による国民健康保険料の軽減
- ・出産費用の無料化
- ・敬老バスを維持し、75歳以上の敬老バス無料化の検討
- ・消費税減税およびインボイス制度の廃止を求めるとりくみ
- ・特別養護老人ホームの増設
- ・高齢者の医療費負担の軽減
- ・狭い生活道路と歩道の整備
- ・住まいは人権、市営住宅の増設・改善
- ・経済の要の中小企業の支援、公契約条例の制定

3 災害に強く市民の命を守るまちづくり

- ・通学路の安全確保（危険なブロック塀対策等）
- ・避難所の拡充と対策
- ・危険な崖地の改善対策
- ・河川の氾濫浸水対策



4 男女賃金格差を無くし、差別のないジェンダー平等の市政実現

5 気候危機打開のための省エネルギーと再生可能エネルギーの拡充

6 憲法9条を生かして市民のいのちとくらしを守る横浜市政の実現

- ・日本国憲法第9条を中心とする平和主義・民主主義・立憲主義の充実
- ・国連憲章に基づく平和の国際秩序、侵略戦争反対、核兵器禁止条約批准のとりくみ

